

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：三朝医療センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
<p>1. 超高齢化社会に対応できる医師および医療従事者を育成するために、学生・卒後研修医ならびにコメディカルに対する教育環境の体制整備を進め、実習および研修の受け入れを積極的に行うとともに、教育プログラムの開発を目指す。</p> <p>2. 独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターおよび大学院保健学研究科との共同研究を進展させるとともに、低線量放射線環境安全・安心工学研究教育において、当該分野に精通した技術者・研究者・医療従事者の育成を目指す。</p>	<p>1. 超高齢化社会に対応できる医師および医療従事者を育成するために、卒後臨床研修医1名を受け入れ教育を行った。</p> <p>2. 独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターおよび大学院保健学研究科との共同研究(極微量ウラン影響効果試験)を継続した。8月、三朝町において、「ラドン効果研究とその関連研究の成果報告会」を日本原子力研究開発機構と共同開催し、ラドンの生体に対する影響ならびに温泉療法の有効性について発表した。また、若手放射線生物学研究会主催(共催:文部科学省「復興対策特別人材育成事業」)の平成25年勉強会―リスクと効能からみたラドン温泉の健康科学―が、平成25年3月28日岡山大学創立五十周年記念館、29日三朝医療センターで開催され、当該分野の人材育成に貢献した。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>学生実習及び卒後臨床研修医等の受け入れ数増加 医学部学生 2名程度 卒後臨床研修医 2名程度</p>	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	
<p>1. 入院機能は休止となるが、鳥取県中部地域において、入院機能補完のための実効性のある病病連携・病診連携を確立し、老年期疾患(呼吸器疾患、消化器疾患、骨・関節疾患、生活習慣病など)を対象とした地域医療の質の向上を図る。</p> <p>2. チーム医療の積極的取り組みを行うことによって、発展性のある外来診療体制を確立し、患者の生活の質中心の医療に心がけ、高齢者にとってより安全・安心な医療の提供に努める。</p> <p>3. 平成22年度より三朝町で展開している新たな滞在型保養プランである「現代湯治・健康増進滞在プラン」をさらに発展させる。温泉地滞在者を対象として、医学的アドバイスおよび、必要に応じて温泉療法を行うことによって、観光型から滞在型保養地へ転換し、地域活性化および病院経営改善への貢献に努める。</p>	<p>1. 老年期疾患の中で、特に慢性呼吸器疾患および肝疾患において、鳥取県中部地域では中心的役割を担った。慢性呼吸器疾患に対して、在宅酸素療法12名、在宅人工呼吸療法4名の実績があった。また、肝疾患においては、肝炎専門医療機関として中部の取り組みに積極的に協力している。</p> <p>2. 院内関連部署で話し合いを繰り返し行い、外来診療体制の再構築を行った。また、患者のQOL(生活の質)を重視し、行政機関、介護施設、他機関との連携を強化し患者への迅速な対応を行った。さらに、患者アンケート調査を2回にわたって行い、患者満足度の向上につなげた。</p> <p>3. 現代湯治の発展系として、三朝町と「ラドン温泉鉱泥湿布施設活用事業」の事業委託の契約を締結し、その中で「鉱泥湿布無料体験」を展開し、体験者は400名を超えた。さらに、1割の体験者は効果を実感し治療として、通院治療をしている。また、この委託事業は、来年度も引き続き継続することとなった。「鉱泥湿布無料体験」については、テレビ・新聞等で広く取り上げられ、全国的な知名度アップにつながり、問い合わせが増加している。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>患者満足度アンケートの満足度向上 満足度90%以上</p> <p>現代湯治・健康増進滞在プランの利用者増加 20名程度</p>	
【総括記述欄】	
<p>三朝医療センターは、平成24年4月以降、外来診療のみを展開し今日に至っている。平成23年度4名の医師数が、平成24年4月から3名、8月から2名に削減されたにもかかわらず、現在勤務している2名のぎりぎりの努力により外来患者数、診療利益ともほぼ、昨年度と同等の数字を維持できている。また、今年度は、医療スタッフのモチベーションを維持・向上できるような外来診療体制を確立するため、センター内で「努力目標」を設定し、二ヶ月毎に行う「中間評価」と、目標達成予定時期に行う「最終評価」を行った。しかし、現在の三朝医療センターは、病床が廃止ではなく休止状態であるため、あくまで病院の人員配置が必要であり、医師数が2名では病院の要件を満たしていない。そのことについては、医療監査でも不備を指摘されており、現状の体制のまま運営することは、法令を違反し続けることになるため早急に改善が必要である。そのためにも、現在の体制は確定的・永続的なものではないことを認識し、三朝医療センターの存廃も含め再検討することが急務であるとする。</p>	